

NEWSWAVE

発行
株式会社 常陽経営コンサルタンツ

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

国の借金は過去最大の 883 兆円うち国債が 8 割の 720 兆円を占める

財務省がこのほど公表した 2010 年 3 月末時点での国債や借入金などを合計した「国の借金」は 882 兆 9,235 億円となり、過去最高を記録していた前回発表の 2009 年 12 月末時点 (871 兆 5,104 億円) を 11 兆 4,130 億円上回り、過去最大の額となった。地方が抱える長期債務残高は 2010 年度末で約 200 兆円程度と見込まれており、国と地方を合わせた借金は、大台の 1,000 兆円を突破する状況にある。

昨年 12 月末に比べ、国債は約 15 兆円増の約 720.5 兆円で全体の約 82% を占め、うち普通国債 (建設国債 + 赤字国債) は、経済危機対策の財源確保や収支削減を補うために増発した影響で、約 17 兆円増の約 594 兆円と過去最高となった。

借入金も、12 月末に比べ約 0.07 兆円減の約 56.4 兆円、政府短期証券も約 3.7 兆円減の約 106 兆円、財政投融资特別会計国債は財投計画の縮小に伴い約 1.5 兆円減の約 122.2 兆円と、いずれも減少している。

この「国の借金」882 兆 9,235 億円は、2010 年度一般会計予算の歳出総額 92 兆 2,992 億円の約 9.6 倍、同年度収支見込み額 37 兆 3,960 億円の 23.6 倍である。

年収 500 万円のサラリーマンが 1 億 1,800 万円の借金を抱えている勘定だ。また、わが国の今年 4 月 1 日時点での推計人口 1 億 2,739 万人 (総務省統計、概算値) で割ると、国民 1 人あたり約 693 万円の借金となる。これは、赤ちゃんや子ども、ご老人などの未就業者を含めての数字である。

家計金融資産、預金志向強まる
生活防衛意識でリスク投資に慎重

日銀の資金循環統計 (09 年 10~12 月期) の速報によると、個人のリスク資産の残高は 162 兆円超、これに預金などを加えた金融資産の合計残高は 1,456 兆円超となり、いずれも 3 年ぶりに増加した。しかし、浮かせた資金の行き先は、収入の減少を受け消費や投資を抑制、大部分は定期預金に回った。現・預金は 12 兆円の純増、その残高は 803 兆円超と過去最高に膨らんだ。

このことから、「貯蓄から投資へ」の流れに水をさすような逆行現象が増しつつあると見られている。市場の専門家の多くの見方も「相場が安定的に上昇するような展開が望めない」という悲観的なもので、現状に加え「デフレ顕著、所得・雇用の将来への不安が拭いきれない」という。そのため生活防衛意識が高まり、定期預金等へシフ

トしており、堅実家計の志向が表れていると分析する。

09 年末時点で個人投資家の資産価値がかさ上げされたのは、金融危機で 08 年末に低迷していた株価がその後緩やかに景気回復し、2 割近く上層基調に転じたからである。ところが、保有資産残高が拡大すれば投資にも好影響を及ぼすはずだが、09 年には投資信託など中心に個人によるリスク資産を「売り越す」現象が起こった。

その後も公示地価のデフレ現象、NY 原油高、ギリシャの財政危機—世界同時株安…と悪材料が続いた。今投資家に限らず、投資と貯蓄の狭間でセルフ・コントロールが試されている。